

2021年11月5日

新型サブゼロ装置 2 機種の販売開始のお知らせ

大陽日酸株式会社（社長：永田研二）は、ストレートスルー型と大型開口型の 2 機種の新型サブゼロ装置を商品化しましたのでお知らせいたします。

記

1. 新機種の販売開始経緯

サブゼロ処理は、鉄鋼材料等の熱処理方法の 1 つであり、熱入れした鋼材を液化窒素ガスによって 0℃以下に急速冷却することにより、金属組織を均一にさせる処理です。

サブゼロ処理を施し金属組織を均一にすることで、金属部品の経年劣化の抑制や硬度・耐摩耗性の向上といった効果が得られます。そのため、サブゼロ処理は寸法精度や硬度が必要とされる自動車部品（ギヤ・ベアリング等）、航空機部品（シャフト等）、精密部品（ゲージブロック等）、工具、刃物など、多くの分野で採用されています。

当社はこれまで、サブゼロ処理品を手動搬入搬出させる「上扉手動開閉型サブゼロ装置」、前面からの自動搬入搬出に対応した「前扉自動開閉型サブゼロ装置」を販売し、100 台以上の納入実績があります。

今般、当社はこれらの実績を背景にお客様の声を生かし、生産工程の中でより効率的にサブゼロ処理を行うことができる、“ワンパス処理”を実現した「ストレートスルー型サブゼロ装置」また、これまで対応できなかった大型部品を一括で処理できる「大開口型サブゼロ装置」の開発も行い、それぞれ商品化しました。

2. 新機種の概要・特徴

1) ストレートスルー型サブゼロ装置

「ストレートスルー型サブゼロ装置」は、前後に 2 つの自動扉を持ち、生産工程における自動搬送機器と組み合わせることで、前扉から搬入したサブゼロ処理品を後扉から搬出することが可能となります。これにより、搬入出における往復動作がなくなり、処理品の搬送設備台数や搬送時間を半減でき、お客様の生産設備全体のコスト低減や作業効率の向上に大きく貢献できます。

2) 大開口型サブゼロ装置

「大型開口型サブゼロ装置」は、最大 1.8m の開口幅に対応し（有効寸法）、従来処理が難しかった大型部品のサブゼロ処理を可能としました。本装置も装置片側に自動扉を設け、自動搬送機器に対応しています。

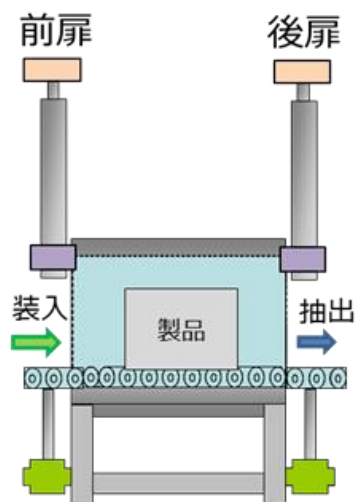
いずれの装置も配置や構成の最適設計を行い、処理時間短縮や庫内温度、液化窒素ガス使用量の最適化等、お客様のご要望を満たす設備としています。

【新機種の外観写真】

1) ストレートスルー型サブゼロ装置

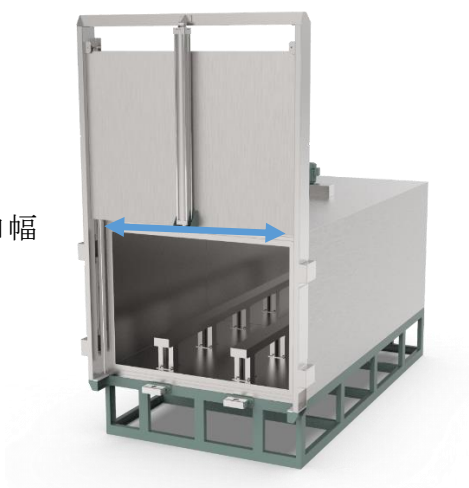


前方より



2) 大開口型サブゼロ装置

最大 1.8 m の開口幅



中央より

以上

本件に関するお問い合わせ
大陽日酸株式会社
東京都品川区小山 1-3-26
広報部
TEL:03-5788-8015
Mail:Tnsc.Info@tn-sanso.co.jp